

平成 28 年度

I 国 語

(9 時 00 分 ～ 9 時 50 分)

注 意

- 問題用紙は，6 問で13ページです。
- 解答用紙は**問題用紙の中**にあります。
- 答えはすべて，解答用紙の所定の欄に，文，文字などで答えるもののほかは，ア，イ，…などの符号で記入しなさい。

福島県磐城第一高等学校

平成二十八年度 I 国語

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

雅之君はこの木のすぐそばで、ヒルガオの群落を描こうと画用紙に向かっていた。梅雨にもかかわらず抜けるような空となった日曜日の昼下がりであった。^①縦横無尽に伸びたヒルガオの蔓は茂みを覆うように巻いていて、たくさんの真珠色の花を付けていた。

実はその時、雅之君は画板を抱えながらも絵が描けないでいた。ヒルガオの花が純粋な白ではないということはわかっていたが、限りなく白に近いその輝きを市販の絵の具でどう作っていくのか、その一点にこだわるあまり、^②前に進めなくなっていたのだ。白をベースに暖色系をわずかず混ぜてみたが、画用紙にのせると明らかに違う色になってしまふ。どうしたものだろうと絵の具を見比べているうち、「おい」と声がかかった。バンさんは笑いながら雅之君の横にきて、「何を描いているんだ？」と覗き込んだ。

雅之君は正直に答えた。目の前のヒルガオを描こうとしていること。でも、花びらの色が出せそうにないこと。

バンさんは「ほう」と納得したような顔になり、しばらく雅之君のすることを見ていた。

「同じ色にしくたつていいんじゃないか」

「はあ……でも」

「絵なんだからさ」

「色を作れないのが悔しいんですよ」

するとバンさんは雅之君のパレットに手を伸ばしてきた。

「混ぜるものが違うんだよ。別に、絵の具じゃなくたっていいんだ」

「え？」

雅之君は絵筆とパレットをバンさんに渡した。いつも通りのごつごつとした汚れた手でバンさんは受け取った。バンさんはヒルガオの群落のところまで歩いていき、数枚の葉をちぎって戻ってきた。指先でそれを潰し、緑の草汁を白い絵の具に何滴か垂らした。そして筆先でぐるぐると混ぜていった。

^③「これで描いてごらん。おそらくこつちの色だから」

思いもよらなかったこの色作りを、雅之君は口を半開きにして見ていた。こんな方法があるなんてまったく知らなかった。そして閉まらないその口からは、さらに^④「わっ」と声が漏れることになった。画用紙に筆を付けた途端、望んでいた色がそこに現れたからだ。

「すごい」

「絵の具だからって、他のものを混ぜちゃいけないなんて考えたらだめだぞ。石の粉を混ぜることもあれば、^{ちようりんぶん}蝶の鱗粉を使う時もある。なん

だってありだよ。方法は自分で開拓していけばいい」

すごいよ、すごい、すごい、と繰り返す雅之君の横でバンさんは草むらにじかに腰を降ろした。あくびをしながら雅之君の描く絵を見ている。そしてごろりと横になった。陽射しが心地よかったのか、バンさんはそのうち寢息を立て始めた。こんなところでバンさん……と雅之君は戸惑ったが、絵を描くのに邪魔になるわけでもないので放っておいた。どれだけ時間がたったのだろう。はっ、と息を吸い込むような音に続き、バンさんが咳払いをした。何も気付いていないふりをして、雅之君は折り畳み椅子に座り直した。筆に絵の具をつけ、再びスケッチブックに向かう。

バンさんはしばらく何も言わなかった。何度かあくびをし、雅之君の隣でただじっとしていた。それからおもむろに「^⑤うまいなあ」とつぶやいた。

「何が？」

「いや、君の絵だ」

「でも……」

何か言われる予感がし、雅之君は振り向かなかった。

「そう。でも、なんだよな。うまいんだが、やっぱり見たままの絵だ。そういう方向でやっていくなら、それはそれでいい。だけど、うまい絵ということだけで競うなら、上には上がいる。世の中には写真と見紛うような絵を描く人がいるからな。どうだ？この道で食っていこうと思っ

てるのか？」

さあ、と雅之君は首をひねった。それを考えないわけではなかったが、まだなんとも、というのが本音だった。

「まあ、ここで人生を決める必要もないんだけどな。ただ、君の絵はまっとう過ぎる。責任感が強過ぎるのかな。その分、視野が狭くなってるんだ」

はあ、と雅之君。

「植物つてのは、こういう生き物なんだぞ。知ってたか？」

バンさんはよろよろと立ち上がると、ヒルガオの群落の横の茂みまで歩いていき、少し迷ってから背丈のある雑草を引き抜いた。川砂の下からずるずると長い根が出てきた。

「地下で頑張っている足腰の方が大きいだろう。それなのに絵描きは、いつも上半分しか描かない。もし君が見たままを再現する絵描きになりたいのなら、一度根まできちんと細密画でやってみな。それはそれで目が新しくなる。そうやって自分のスタイルつてものを探す旅に出るんだよ」

バンさんはそれだけを言うと、何度か背伸びをして「うおーっ」と意味不明に唸った。

「楽しんでな、頑張れよ」

雅之君が「はい」と答えると、バンさんは鼻歌でメロディのようなものをなぞりながら遊歩道の方へと歩いていった。雅之君は小さな声で

「どうも」とささやき、去っていくバンさんの背中に向けてぺこりと頭を下げた。

雅之君の足下に、バンさんの抜いた雑草が残された。

ヒルガオの花びらはどうしてもよくなっていた。雅之君のなかで、植物そのものの印象が変わっていた。これまで自分が強調しようとしていた植物の可憐さはどこかに消え、生々しい生き物としての存在感が迫ってきた。草の根の形なんて知り尽くしていたはずなのに、少し視線を変えただけで、まるでこの星に潜んで生きるため、姿を変えた宇宙生命体のようにも見えるのだった。

新鮮だった。意図的に^(注)デフォルメしてもいいから、雅之君はこの感じ、この方向で植物を捉え直してみようと思った。

(明川哲也^{あきかわてつや}「大幸運食堂」より)

(注) デフォルメ：絵画・彫刻等で対象を意識的に変形して表現すること。

1 傍線部①「縦横無尽に」とあるが、この状態はどのような表現に言い換えることができるか。最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア あちこちに イ 真つすぐに
ウ 目立たずに エ おおげさに

2 傍線部②「前に進めなくなっていた」、④「『わっ』と声が漏れることになった」とあるが、このときの雅之君の気持ちはどのようなものか。最も適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 悲哀 イ 恐怖 ウ 驚嘆 エ 安心
オ 苦悩 カ 敬遠 キ 愉快 ク 後悔

3 傍線部③「これで描いてごらん。おそらくこつちの色だから」とあるが、バンさんは、色作りの方法を通してどのようなことを雅之君に伝えているか。次の文の [a] ・ [b] にあてはまる言葉を、 [a] は十字以内で適当な表現を考えて書き、 [b] は本文中から五字で抜き出さない。

色作りはもちろんのこと、物事への取り組み方については、
[a] のではなく、 [b] することが大切だということ。

4 傍線部⑤「うまいなあ」とあるが、作者はバンさんのこの言葉によつて、どのようなことを伝えようとしているか。最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 雅之君の上手さをほめつつ、画家として生きるにはまだ技術が不足していると、バンさんが知っていること。

イ 雅之君の上手さを認めているが、彼が自分のスタイルをまだ見つけていないと、バンさんが感じていること。

ウ 雅之君の上手さを確信したうえで、彼には有名な画家になってもらいたいと、バンさんが期待していること。

エ 雅之君の上手さに大きな可能性を感じて、早く画家となる決心をするべきだと、バンさんが考えていること。

5

雅之君の植物を描く姿勢は、どのように変化しているか。それを説明した次の文の a ・ b にあてはまる言葉を、

a は四字で、 b は十四字で、それぞれ本文中から抜き出さない。

これまでは、植物を a 描こうとしてきたが、これからは b を捉えて描こうという姿勢へ変化した。

二 ② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちは何のために働くのだろうか。

食べていのちをつなぐためだという原形はすぐに見えてくる。そしてどんなに文明が進んでも人間が動物である以上この条件は変わらない。数百万年間採集という分かりやすい形で、食べること、働くこと、生きることがびつたりと重なっていたらう。

しかし人間はとびきり好奇心の強いサルである。いのちの確保以上に珍しいこと、美しいものが好きである。ここから、交換、商業、交易が始まる。おそらく「よく生きたい」はここに発するだろう。人間にあつては「よく」は必ず「よりよく」であり、それは比べることから可能になるからである。①働くことのもう一つの原形、それは、「よりよく」に②応えること、具体的には、おいしい食べ物、きれいな着物、見栄えのする道具を含めて、珍しい美しい「財（宝）」を所有することである。

働く人々にも、作り出す人と交換する人の区別ができてくる。前者は「生きる」という人間に自然で必然の基本に関わることであり、後者は「よく生きる」という③必ずしも必然とは言えない欲求に基づく。他の動物と異なる人間らしさは④後者の発達を著しく促し、間接的な交換が直接的な食糧や道具の生産とあい並ぶようになる。

また、働くこととキョウジュすることの分化も生じる。例えば、幼き子ども、弱った病者や高齢者、支配者が食べるために別の人が働く。財に

関しても、美しいものを作るには才能が必要だから専門の工芸の作り手が発生し、遠くからやってくるものほど珍しいから交易をもつばら仕事とする商人が働くことになる。

こうして^④働くことの派生形ができるのである。それは、獲得したい食糧や道具や財に交換できるものを生み出す間接的な労働である。これには、あらゆるものに交換できる貨幣を獲得することが便利である。だから働くことは結局、金を稼ぐことに帰着した。

この段階で思考停止になってしまう人がある。働くのはすべて金のためだ、と。 物や人を左右する力の多くが金によって手に入るように見えるから、その魅力にとりつかれた人には確信になりやすい。ところが働くことはもつと奥深い。

ここで^(注)内山節^{たかし}の「稼ぎ」と「仕事」の区別を借りよう。稼ぎは賃労働のことであって、報酬として金以外の目的をもたない働きのことである。このような労働は苦役としか感じられないだろう。

では稼ぎと対置される仕事はどんな特徴をもつか。それは、私の仕事と^{だれ}か誰^{だれ}そのの仕事というように個有名をもつということである。稼ぎではその働き具合にケチがついても平気だし、見つからなければサボってもよいと思う。所詮^{しよせん}金のためだ、と。ところが仕事の評価はよくても悪くても人格の評価のように感じられる。立派な仕事だ、つまらん仕事だ、と言われることに一喜一憂し、怒り出すことすらある。^⑤稼ぎと違って仕事は人格化される。

ここには何が見てとられているのだろうか。それは働くことは自己実現だという考え方である。自己実現の純粋な姿は、砂場で熱心にお城を築いてすごくうまくできたときの幼児の笑顔である。天才的な芸術家にはこれと共通する仕事の姿がある。だが、どんな仕事にもこの要素はあって、誰をも我知らず頑張らせてしまう。

ところが、普通この自己実現は他者から認められることによって確認され強められる。というよりも、共同体の中で与えられた役割を果すことで、仲間から認められ、その結果自分の力を自分の仕事の中に見出せる、と言ったほうが実態に合っている。この意味では働くことの最も強い意味づけは、共同体の中に役に立つ一員として位置づけられることである。社会に貢献していることを認められることが人間を労働に向かわせる最大の**ドウキ**^bであり、報酬である。

さらに、社会をみんなで支えるための、もう一つの労働の意味がある。かつては物納や労働力そのものの徴用もあったが、今はその代わりに税金を納めることである。役所や保安の仕事、ゴミ^c。シュウシュウ、公務員の給与などの社会を運営する費用を国民は税金で分担している。働くことの一部はこの税金を収めることである。あらゆる人がそれぞれにふさわしく力を尽くして、社会を支えているのである。

以上を踏まえて、自分の人生に仕事を組み込むことを考えなければならぬ。「よく生きたい」はここで「よい仕事をしたい」という形をとる。よい仕事があるのではなく、仕事へのよい取り組み方があるということだ

ある。真剣に責任感をもって働く、何がよいかを考えながら働くことで自分の仕事に意味を見い出す。この姿勢がよい仕事をつくり出すのであって、目の前によい仕事が続いているのではない。よい人生もまたしかりである。

(工藤和男「くらしとつながりの倫理学」より)

(注) 内山節：哲学者。

1 傍線部 a～c のカタカナを、漢字に直しなさい。

2 本文中の にあてはまる語として、最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たしかに イ たとえ
ウ しかし エ ゆえに

3 傍線部①「働くことのもう一つの原形」とあるが、筆者が本文中で述べている一つ目の原形とはどのようなことか。文末の表現に続くように、本文中から抜き出しなさい。

4 傍線部②「必ずしも」が、直接かかるのはどの言葉か。本文中から一文節で抜き出しなさい。

5 傍線部③「後者」とは、ここでは何を表しているか。文末の表現に続くように、本文中から五文字以内で抜き出しなさい。

6 傍線部④「働くことの派生形」として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア おいしい食物を得ること
イ 珍しい宝を売買すること
ウ 美しい品を作り出すこと
エ 生きるために食べること

7 傍線部⑤「稼ぎと違って仕事は人格化される」とあるが、それはどのようなことか。五十五字以内で答えなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(一部表記を改めたところがある。また、[1]～[11]は各段落に付した段落番号である。)

[1] サクラの葉っぱがまだ緑色をしている初秋に、^①ある質問を受けました。「数日間、雨が降り続いたあとの雨あがりの日、サクラ並木を自転車で走っていました。すると、桜もちの香りがほのかに漂ってきたように思います。雨にぬれたサクラの葉っぱからは、桜もちの香りが漂うのでしょうか」というものでした。

[2] 桜もちの葉っぱからは、おいしそうな甘い香りが漂い、食欲をそそります。これは「クマリン」という物質の香りです。でも、サクラの木に茂っている緑の葉っぱをもぎ取って香りを嗅^かいでも、桜もちの葉っぱの香りはしません。

[3] サクラは、葉っぱが虫にかじられて傷つけられたときに、あの香りを発散させて、自分の葉っぱを守るのです。あの香りは、私たちにほおいしそうな気持ちのいい香りなのですが、虫には嫌がらせの香りなのです。そのため、葉っぱをもみくちやに丸めて傷だらけの状態にすると、虫にかじられたのと [A] 状態になり、数分後にあの香りがほのかに漂ってきます。

[4] 傷がついていない緑の葉っぱには、クマリンができる前の物質(物質A)が含まれています。この物質には、まだ香りはありません。

葉っぱには、もう一つの物質が含まれています。それは、クマリンができる前の物質をクマリンに変えるはたらきがある物質(物質B)です。

[5] しかし、傷がつかずに生きている緑の葉っぱの中では、二つの物質は^aセツシヨクしないようになっています。 [I]、クマリン

ができることはなく、香りは発生しないのです。 [II]、

葉っぱが傷ついたり、葉っぱが死んだりすると、これらの二つの物質が出会って反応します。その結果、クマリンができて、香りが漂ってくるのです。

[6] ですから、サクラの緑の葉っぱに数日間雨が当たっても、桜もちの香り、すなわち、クマリンの香りが漂うことはありません。では、質問のように、なぜ雨あがりのサクラ並木で、桜もちの香りがしたのでしょうか。

[7] 原因は、桜並木のサクラの木の根もと付近にたまっている、サクラの古い落ち葉です。古い落ち葉は死んでしまっているのです、桜もちの香りがほのかにします。お天気が続いていると、落ち葉はカラカ

4

I

II

にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア I しかし II かえって

イ I そして II なぜなら

ウ I だから II ところが

エ I しかも II すなわち

5

次は、**2** 段落と **5** 段落の内容をまとめたものです。

a

c にあてはまる言葉を【指示事項】に従って答えなさい。

なお、二か所ある a には、同じ言葉が入る。

内容のまとめ

香りの正体

……

a

という物質の香り

香りの発生について

- ・葉っぱが傷つかず生きている状態では、香りは発生しない
 - ・葉っぱが傷ついたり、死んだりした状態では、**b** するこ
- とで **a** ができ、香りが発生する

香りの

c

…… 虫を遠ざける

【指示事項】

a …… 本文中から抜き出す。

b …… 本文中の言葉を使って十字以内で答える。

c …… 次の中から選び、記号で答える。

ア 種類

イ 役割

ウ 弊害

エ 構造

6

傍線部②「**すごさ**」を感じずにはいられません」とあるが、筆者はどのような点に「**すごさ**」を感じているか。四十文字以内で答えなさい。（句読点も字数に含む）

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《宰相殿の家では、夜になると庭に正体の分からない女が姿を現すことがたび重なっていた。》

ある一人の年若い侍が小侍、(注1) かの屏風を見て言ふやう、(1) このころ御内お屋敷内の人のあやしみあひける女は、この絵の内にこそあるなれとて、仲間の侍 かたへの人を呼びAて見るに、げにも夜な夜な見見たとおりしごとく子抱きたる女あり。(2) あやしがりて、その(3) 絵の頭に細き紙を張りて置きければ、その夜よりは先例のの女、頭に紙の付きたるままにて、壺前中庭の植木の間を歩き回っていた裁の内に遊びゐたりける。
「思った通りださればよ」とて、そのことを かのよし宰相殿に申しければ、絵師どもを召お呼びになつてしてかの屏風をB見せ給ふに、みなみな驚きて、「これは土佐(注2)の光起土佐光起の絵でが筆にて、めすばらしくでたく書きなせしものなれば、さる奇異の事もありしならん」と申しければ、それより深く秘蔵大切にしまつておかれたということだし置かれけるとぞ。

(「落栗物語」より)

(注1) かの屏風…この家で長く使われずに保管されていた古い屏風。

(注2) 土佐の光起…江戸時代の高名な画家。

1 波線部を現代かなづかいに直しなさい。

2 二重波線部A・Bの主語として最も適当なものを、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 小侍

イ 子抱きたる女

ウ 宰相殿

エ 絵師ども

3 傍線部①「このころ」から始まる「小侍」の言葉はどこまでか。終

わりの三字を抜き出しなさい。(句読点も字数に含む)

4 傍線部②「あやしがりて」の意味として最も適当なものを、次の中

から選び、記号で答えなさい。

ア 気の毒に思つて

イ 不思議に思つて

ウ 不快に思つて

エ 厄介に思つて

5 傍線部③「絵の頭に細き紙を張りて置きけれ」とあるが、このよう

な行動をとった目的について説明した次の文の [] にあて

はまる内容を、二十字以内の現代語で答えなさい。（句読点も字数に含む）

絵の女が、 [] ため。

6 この話の主旨として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答

えなさい。

ア 子を思う親の深い愛情は常識を超えた奇跡を生み出すこと。

イ 奇怪な出来事を引き起こすほど達人の力は偉大であること。

ウ 優れた芸術でも本質を見抜けない者には無意味であること。

エ 機転のきいた行動が時として人々を苦境から救い出すこと。

五

小川さんは、国語の時間に一分間スピーチをすることになった。次の小川さんのスピーチ原稿の下書きを読み、後の問いに答えなさい。

私は、先日の職場体験で幼稚園に行ったとき、「先生方に教えていただいたことを他山の石とせず残りの中学校生活に生かしていきます。」と話したら、あとで園長先生から注意を受けました。

「他山の石とする」という言葉は、正しくは「 [A] 」とい

う意味ですが、私は「他山の石」を「自分とは無関係なこと」という意味に取り違えていました。お礼を [B] 言おうとしたのに、感謝の

気持ちが伝わらず、かえって失礼なことをしてしまいました。

[C] 言葉の使い方を誤ると、自分の考えが正しく伝わらないばかり

か、相手にたいへん不愉快な思いをさせることにもなるので、言葉の意味を確かめて、時と場合に応じた使い方をしたいと思います。

1

A に入れるのに最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他人のつまらない言葉や動作を自分自身の向上の助けとする
イ 他人のつまらない言葉や動作を遠くから見てもすばらしいと思う
ウ 他人のすばらしい言葉や動作でもいつも役立つとは限らない
エ 他人のすばらしい言葉や動作を遠くから見て価値がないと思う

2

傍線部B「言おう」を適切な敬語に直す場合、

① その敬語の種類として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 尊敬語

イ 謙譲語

ウ 丁寧語

② その敬語と同じ種類の敬語として最も適当なものを、次の中から

選び、記号で答えなさい。

ア いらっしゃる

イ 召し上がる

ウ ございます

エ 拝見する

3

傍線部C「言葉の使い方を…と思います。」を、意味を変えずに二つの文に分けて次のように書く場合、
① ・ ② にあてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。ただし、
① は五字以内で答え、
② は、最も適当なものを後の語群から選び、記号で答えなさい。

言葉の使い方を誤ると、自分の考えが正しく伝わらないばかりか、相手にたいへん不愉快な思いをさせることにも

① 。

② 、言葉の意味を確かめて、時と場合に合った使い方をしたいと思います。

《語群》

ア しかも

イ なぜなら

ウ けれども

エ ですから

オ むしろ

六

あなたがこれまでに読んだ本、または、見た映画のどちらかについて、どのような場面が印象に残っているか。その理由や感想を、後の《注意》に従って書きなさい。

《注意》

原稿用紙の正しい使い方に従って、一六〇字以上、二〇〇字以内で書くこと。

本や映画の内容紹介にならないように書くこと。

題名などは書かずに、本文から書き始めること。